第二講　演習問題(2)

左の文章は『源氏物語』の一節で、光源氏が紫の上と物語や女子教育について語る場面である。これを読んで後の設問に答えよ。

紫の上も、(注1)姫君の御あつらへにことつけて、物語は捨てがたく思したり。(注2)くまのの物語の絵にてあるを、「いとよく描(か)きたる絵かな」とて御覧ず。

「姫君の御前(おまへ)にて、この(1)世馴れたる物語など、な読み聞かせたまひそ。(注3)みそか心つきたるものの娘などは、をかしとにはあらねど、(2)かかること世にはありけりと見慣れたまはむぞ、(3)ゆゆしきや」とのたまふも、(4)こよなしと、(注4)対の御方聞きたまはば、心置き(イ)たまひつべくなむ。上、「(注5)心浅げなる人まねどもは、見るにもかたはらいたくこそ。(注6)宇津保の藤原君(ふぢはらのきみ)の女(むすめ)こそ、いと重りかにはかばかしき人にて、過ちなかめれど、(注7)すくよかに言ひ出でたるしわざも、女(をんな)しきところなかめるぞ、(5)一様(ひとやう)なめる」とのたまへば、「(6)うつつの人も、さぞあるべかめる。人々しく立てたるおもむき異(こと)にて、よきほどにかまへぬや。よしなからぬ親の、心とどめて生(お)ほしたてたる人の、(注8)子めかしきを生(い)けるしるしにて、(7)後れた

ること多かるは、何わざしてかしづきしぞと、親のしわざさへ思ひやらるるこそ(8)いとほしけれ。げにさ言へど、(注9)その人のけはひよと見えたるは、かひあり、おもだたしかし。言葉の限りまばゆくほめおきたるに、し出でたるわざ、言ひ出でたることのなかに、げにと見え聞こゆることなき、いと見劣りするわざなり。すべて、よからぬ人に、(9)いかで人ほめさせじ」など、ただ「この姫君の、(注10)点つかれたまふまじく」と、よろづに思しのたまふ。継母(ままはは)の腹ぎたなき昔物語も多かるを、「(10)心見えに心づきなし」と思せば、いみじく選(え)りつつなむ、書きととのへさせ、絵などにも描かせロたまひける。

注
1　姫君―明石の姫君。源氏が明石の上との間にもうけた娘で、紫の上に育てさせていた。
2　くまのの物語―当時存在した物語の書名。今日には伝わっていない。
3　みそか心―異性を恋しく思う気持ち。
4　対の御方―源氏の養女、玉鬘(たまかづら)。日ごろ物語を愛読していた。
5　心浅げなる人まね―物語を読んで、思慮もなくそれをまねること。
6　宇津保の藤原君の女―『宇津保物語』のヒロイン貴宮(あてみや)。多くの男から求婚されたが、それを拒絶して春宮に入内(じゅだい)した。
7　すくよか―生真面目すぎて愛嬌に乏しいようす。
8　子めかしきを生けるしるしにて―子供のように純真であるということだけを、せめてものとりえとして。
9　その人のけはひよ―さすがにその身分にふさわしいようすだな。
10　点つかれたまふ―非難をお受けになる。

(A) ――線部イ・ロは、それぞれ誰に対する敬意か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選べ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

1 源氏　　2 姫君（明石の姫君）
3 紫の上　　4 対の御方（玉鬘）

イ＝　　ロ＝

(B) 〰〰線部を、句読点とも十五字以内で現代語訳せよ。

(C) ――線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1 世間ずれがしている
2 庶民的でおもしろそうである
3 本当にありそうである
4 世俗の知恵に富んでいる
5 男女間の情に通じている

(D) ――線部(2)について。「かかること」とはどのようなことか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　義理の親子関係の難しさ
2　俗世間のいろいろな煩悩
3　男女間における恋愛
4　果てしない人間の欲望
5　人を欺くさまざまな策略

(E) ――線部(3)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　重大事だ
2　不幸だ
3　当然だ
4　浅はかだ
5　さすがだ

(F) ――線部(4)について。「こよなし」と思う内容は何か。左記各項の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　源氏が紫の上を愛していること
2　源氏が姫君を大切にしていること
3　源氏が物語を好んでいること
4　紫の上が姫君を大切に育てていること
5　紫の上が物語を好んでいること

(G)――線部(5)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　いつの時代でも同じように高い評価が得られないでしょう
2　いつも同じように彼女は冷たい人だと感じさせるのでしょう
3　思慮もなく人まねをする女と同じようによくないでしょう
4　世間にありふれている、つまらない女だと思わせるのでしょう
5　近ごろの若い女性に共通して見受けられる現象でしょう

(H)――線部(6)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　理想に対する現実　　2　虚構に対する現実
3　過去に対する現在　　4　正気に対する夢心地
5　夢に対する目覚めた状態

(I)――線部(7)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　後の残されたこと　　2　後になって知ること　　3　劣っていること
4　先立たれること　　5　気づくのが遅いこと

(J)――線部(8)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　面倒だ　　2　興ざめだ　　3　気の毒だ
4　困りものだ　　5　残念だ

(K) ——線部(9)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

1　どうしても私をほめずにはおられまい
2　どうしても人々がほめるに違いあるまい
3　どうしても継母の評価を言わせないようにしよう
4　どうにかして人々を高く評価しないようにさせよう
5　どうにかして娘をほめさせないようにしよう

(L) ——線部(10)について。「心見えに心づきなし」という思惟内容には、誰の誰に対する配慮が表現されているのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選べ。

1　源氏の姫君に対する配慮
2　源氏の紫の上に対する配慮
3　源氏の玉鬘に対する配慮
4　紫の上の姫君に対する配慮
5　紫の上の玉鬘に対する配慮

第二講

〈模範解答〉

(A) イ 4　ロ 1
(B) 読み聞かせなさいますな。(十二字)
(C) 5　(D) 3
(E) 1　(F) 2
(G) 3　(H) 2
(I) 3　(J) 3
(K) 5　(L) 2

〈現代語訳〉

紫の上も、明石の姫君の御注文にことよせて、物語については捨てがたくお思いになっている。『くまのの物語』で絵に描かれてあるのを、「本当に上手に描いてある絵だわ」と言ってご覧になる。

(源氏が)「姫君の前で、この男女間の情に通じている物語など、読み聞かせなさいますな。異性を恋しく思う気持ちを持つ何かの娘などは、おもしろいというのではないが、このようなこと〔＝男女間における恋愛〕が世の中にはあるのだなあと見慣れなさるとしたら、重大事だ」とおっしゃるのも、「(自分に対する扱いと)違いがはなはだしい〔＝源氏が姫君を大切にしている〕」と、対の御方〔＝玉鬘〕がお聞きになったら、きっとお思いになるだろう。紫の上が、「物語を読んで、思慮もなくそれをまねることは、はたから見るにもみっともないことです。『宇津保物語』の貴宮は、とても落ち着いていてしっかりした人で、間違いがないようだが、生真面目すぎて愛嬌に乏しく口に出して言うことも、女らしいところがないようなのは、(思慮もなく人まねをする女と)同じよう(によくない)でしょう」とおっしゃると、(源氏は)「(虚構に対する)現実の人間も、

そうであるようだ。人並みにもっている意向が異なっていて、ちょうどよくふるまえないのだよ。身分や教養などが低くはない親が、気にかけて育てあげた人が、子供のように純真であるということだけを、せめてものとりえとして、劣っていることが多いのは、どんなことをして大切にしてきたのかと、親のしたことまでも自然に思いやられるのは気の毒だ。なるほどそうは言うものの、（娘を見て）さすがにその身分にふさわしいようすだなと思われるのは、（育てる）かいがあって、面目の立つことだよ。言葉をつくして（周囲の人が）恥ずかしいくらいにほめておいたのに、（本人の）しでかしたこと、口にしたことの中に、（こちらに）なるほどと見えたり聞こえたりすることがないのは、たいそう見劣りすることである。総じて、優れていない人には、どうにかして娘をほめさせないようにしよう」など（とおっしゃり）、ただ「この姫君が、非難をお受けにならないように」と、何につけてもお思いになっておっしゃる。継母の意地が悪い昔物語もたくさんあるのだが、（源氏は）「（継母の）心を見透かされることで（紫の上のためにも）気にくわない」とお思いになるので、きびしく選んでは選び、書き集めさせ、（源氏は）絵などにも描かせなさった。